

合成樹脂工業協会賞 受賞者一覧

<第1回> (1977)

石田 真一郎	(金沢大学工学部)	フェノール樹脂の分子量分布と生成反応に関する研究。
加門 隆	(京都市工業試験場)	エポキシ樹脂の硬化に関する研究。
柘植 盛男	(住友ベークライト(株))	ホルノアルデヒド縮合系樹脂の分子量分布測定法に関する研究。
殿谷 三郎	(大阪市立工業研究所)	熱硬化性樹脂成形材料の流動硬化特性試験に関する研究。
端 直明	(旭電化工業(株))	エポキシ樹脂の粘弾性に関する研究。

<第2回> (1978)

高橋 農夫	(丸善石油(株))	ポリ P- ビニルフェノール系耐熱成形材料の研究。
向山 吉之	(日立化成工業(株))	ホルムアルデヒド縮合系樹脂等の樹脂構造に関する研究。

<第3回> (1979)

田中 芳雄	(繊維高分子材料研究所)	エポキシ樹脂の硬化およびエポキシ化合物の反応性に関する研究。
小松原 勤	(大阪市立工業研究所)	フェノール樹脂の改質及び変性に関する研究。

<第4回> (1980)

福田 明徳	(大阪市立工業研究所)	フェノール樹脂の硬化特性と高性能化に関する研究。
富田 文一郎	(東京大学農学部)	アミノ系樹脂の構造及び生成反応に関する研究。

<第5回> (1981)

姥川 彰	(大阪大学工学部)	高分子量ノボラック型樹脂の合成に関する研究。
吉村 幸雄	(日立化成工業(株))	フェノールーホルムアルデヒド樹脂及びその変性に関する研究。

<第6回> (1982)

竹内 茂彌	(富山大学教育学部)	カルバミン酸エステルーホルムアルデヒド樹脂の構造と生成反応に関する研究。
松本 昭	(関西大学工学部)	アリアル樹脂の3次元化機構に関する研究。

(特別賞)

熊野谿 従	(東京大学生産技術所)	(イ) 材料設計の化学を有機合成、反応化学を基礎として、粘弾性、NMR (広幅) 及び電子顕微鏡法等による分子パラメーターの測定等を用いて展開した。 (ロ) 本講演討論会の運営並びに学術誌「熱硬化性樹脂」の編集を通して熱硬化性樹脂の学会及び業界に貢献した。
-------	-------------	---

(特別賞)

堀内 光	(大阪市立工業研究所)	(イ) フェノール樹脂の生成、硬化、分解反応等の機構を解明した。 (ロ) 本講演討論会の運営並びに学術誌「熱硬化性樹脂」の編集を通して熱硬化性樹脂の学会及び業界に貢献した。
------	-------------	---

<第7回> (1983)

柴 隆一	(東京電機大学工学部)	メラミン樹脂の硬化機構に関する研究。
------	-------------	--------------------

＜第 8 回＞ (1984)

仙波 俊裕 (住友ベークライト(株)) フェノール系樹脂及び尿素系樹脂の官能基及び分子種分析法の研究。

＜第 9 回＞ (1985)

越智 光一 (関西大学工学部) エポキシ樹脂硬化物の物性と硬化機構に関する研究。

中本 義章 (金沢大学工学部) フェノール系オリゴマーに関する研究。

長谷川 喜一 (大阪市立工業研究所) エポキシ樹脂の構造と物性に関する研究。

＜第 10 回＞ (1986)

(特別賞)

田中 誠之 (明星大学工学部) 熱硬化性樹脂の機器分析に関する研究。

＜第 11 回＞ (1987)

犬塚 功三 (東京電機大学工学部) メチロールメラミンの電子的性質に関する分子軌道法による研究。

戎野 棟一 (東邦大学理学部) シアノグアニジンとホルムアルデヒドとの反応に関する研究。

＜第 12 回＞ (1988)

押久保 寿夫 (日立化成工業(株)) アミノアルキッド樹脂の熱硬化反応機構に関する研究。

難波 宏彰 (山陽国策パルプ(株)) ジシクロペンタジエンとフェノール類の共重合物及びその誘導体に関する研究。

(特別賞)

垣内 弘 (横浜国立大学) (イ) 熱硬化性樹脂に関する広範囲にわたる顕著な研究業績並びに執筆活動。

(ロ) 本講演会の運営 (第 1 回以来の運営幹事) 並びに学術誌「熱硬化性樹脂」の編集 (創刊以来の編集長) を通して熱硬化性樹脂の学会及び業界に貢献した。

＜第 13 回＞ (1989)

進藤 洋一 (東邦大学理学部) ポリマー溶液中での分子内及び分子間光橋架け反応に関する研究。

小林 雄二 (日立化成工業(株)) フェノール変性メラミン樹脂の硬化及びゲル化物のモルフォロジーに関する研究。

柴原 澄夫 (住友ベークライト(株)) NMR 及び FD-MS によるイミド系樹脂の構造に関する研究。

(特別賞)

三田 達 (東京大学) (イ) 高分子の硬化反応を定量的に追跡する手法を開発して熱硬化性樹脂に適用した。

(ロ) 本講演討論会の運営並びに学術誌「熱硬化性樹脂」の編集を通して熱硬化性樹脂の学会及び業界に貢献した。

殿谷 三郎 (大阪市立工業研究所) (イ) 熱硬化性樹脂の成形加工技術の研究及び技術指導。

(ロ) 本講演討論会の運営並びに学術誌「熱硬化性樹脂」の編集を通して熱硬化性樹脂の学会及び業界に貢献した。

<第 14 回> (1990)

飯島 孝雄 (横浜国立大学) エポキシ樹脂の合成及び改質に関する研究。

榎 尚史 (住友ベークライト(株)) マレイミド樹脂の硬化反応に関する研究。

(特別賞)

大岩 正芳 (関西大学工学部) フェノール-フルフラール樹脂の熱硬化反応の反応動力学的取扱による解析。

<第 15 回> (1991)

野本 雅弘 (日立化成工業(株)) 桐油・フェノール類反応生成物及びフェノール樹脂硬化物の分析に関する研究。

<第 16 回> (1992)

尾形 正次 (株)日立製作所) 樹脂封止型半導体用エポキシ樹脂並びに封止に関する研究。

中村 吉伸 (日東電工(株)) エポキシ樹脂の機能化に関する界面化学的研究。

(特別賞)

佐藤 謙二 (東京理科大学工学部) メラミン樹脂の生成、硬化、分解に関する速度論的研究。

<第 17 回> (1993)

松本 明博 (大阪市立工業研究所) マレイミド系ポリマーによるフェノール樹脂の高性能化に関する研究。

稲富 茂樹 (旭有機材工業(株)) ビスフェノール類の選択的合成反応に関する研究。

<第 18 回> (1994)

梶 正史 (新日鐵化学(株)) エポキシ樹脂の構造と硬化物の物性に関する研究。

(特別賞)

石井 敬一郎 (住ベテックノリサーチ(株)) フェノール樹脂、マレイミド樹脂等熱硬化性樹脂の反応因子とケル構造の研究。

<第 19 回> (1995)

久保内 昌敏 (東京工業大学) エポキシ樹脂の熱挙動試験と粒子充填樹脂の熱衝撃挙動の研究。

小島 靖 (日立化成工業(株)) 飽和ポリエステル／メラミン樹脂の硬化機構と硬化塗膜に関する研究。

(特別賞)

遠藤 剛 (東京工業大学) (イ) 非収縮性ネットワークポリマーの設計と機能に関する研究。

(ロ) 本講演討論会の運営並びに学術誌「熱硬化性樹脂」の編集(委員長)を通して熱硬化性樹脂の発展に貢献した。

<第 20 回> (1996)

船岡 正光 (三重大学) フェノール系リグニン素材の設計と機能に関する研究。

山岸 忠明 (金沢大学) フェノール系樹脂の構造と物性に関する研究。

＜第 21 回＞ (1997)

青田 浩幸 (関西大学)

ESR によるビニル系ネットワークポリマーの網目構造のキャラクタリゼーションに関する研究。

曾根 嘉久 (住金化工(株))

芳香族炭化水素系耐熱樹脂の改質及び変性に関する研究。

(特別賞)

石田 真一郎 (金沢大学)

(イ) フェノール樹脂の生成反応及び性質に関する研究。

(ロ) 本講演討論会の運営並びに学術誌「熱硬化性樹脂」の編集を通して熱硬化性樹脂の学会及び業界に貢献した。

＜第 22 回＞ (1998)

(特別功績賞)

井本 稔 (本・編集委員会顧問)

三先生は熱硬化性樹脂に関する基礎研究、開発研究を精力的

大島 敬治 (本・編集委員会顧問)

に推進し、わが国における先駆者として多大な貢献があり、

鶴田 四郎 (本・編集委員会顧問)

更に「熱硬化性樹脂講演討論会」の運営を通じ、この分野の学術研究、技術開発の交流の場を創設し、次いで「IOT 賞 (現、合成樹脂工業協会賞)」を創設され後進を育成指導した。

(学術賞)

柘植 盛男 (元・住友ベークライト(株))

各種の機器分析法を活用し樹脂の分析に取組み、ホルムアルデヒド縮合系樹脂のキャラクタリゼーションについて精力的に展開した。

(学術奨励賞)

森 邦夫 (大日本インキ化学工業(株))

不飽和化合物を利用した新規フェノール樹脂の合成及び架橋システムの研究。

＜第 23 回＞ (1999)

(学術賞)

丹野 毅 (日立化成工業(株))

クロロプレン系接着剤の改質材として各種アルキルフェノール樹脂の開発を手始めに、その後 20 年に亘り多数の講演発表を通じネットワークポリマーの発展と後進の指導に尽くした。

(学術奨励賞)

三田 文雄 (東京工業大学)

双環状モノマーの並行反応を基盤とするネットワークポリマーのケミカルリサイクルに関する研究。

陶 晴昭 (日立化成工業(株))

低分子化を伴うナフトール樹脂の合成及び反応機構に関する研究。

＜第 24 回＞ (2000)

(特別功績賞)

垣内 弘 (横浜国立大学)

(イ) 熱硬化性樹脂に関する広範囲にわたる顕著な研究業績並びに執筆活動。

(ロ) エポキシ樹脂技術協会を設立され、樹脂全般の技術の向上、ISO 規格・JIS 規格の提案、エポキシ樹脂の安全性の調査啓蒙にも精力的に貢献した。

(ハ) 本講演討論会の運営 (第 1 回以来の運営幹事) 並びに学術誌「熱硬化性樹脂」の編集 (創刊以来の編集長) を通して熱硬化性樹

脂の学会及び業界に貢献した。

(学術賞)

- 加門 隆 (元・京都市工業試験場) エポキシ樹脂の触媒硬化型硬化剤 3 級アミンによる硬化機構の究明を熱機器分析を利用した解明に貢献し、その成果を熱硬化性樹脂及び同講演討論会にて発表した。
- 向山 吉之 (日立化成工業(株)) ホルムアルデヒド縮合系樹脂の構造解明に注力し、ポリアミド樹脂、ユリア樹脂、フェノール樹脂との共縮合のキャラクタリゼーションを行った。またネットワークポリマー編集委員を創刊以来一貫して担当し研究と業界の発展に尽くした。

(学術奨励賞)

- 島村 哲郎 (京都市工業試験場) フェノール樹脂熱分解液のエポキシ樹脂化に関する研究。

(ネットワークポリマー功労賞)

- 橘田 義弘 (元・松下電工(株)) ユリアーホルムアルデヒド樹脂成形材料、メラミン化粧板の開発、樹脂の連続製法などの開発改良研究の傍ら、長年ネットワークポリマー編集委員を勤め、同ポリマーの発展に貢献した。
- 大喜多 泰郎 (三井サイテック(株)) 溶液型塗料用熱硬化性樹脂の研究を手始めに熱硬化型アクリル樹脂、熱硬化性樹脂のすい成果の研究の傍ら、長年ネットワークポリマー編集委員を勤め、同ポリマーの発展に貢献した。

<第 25 回> (2001)

(学術賞)

- 松本 昭 (関西大学) (イ) 多官能ビニル化合物のラジカル架橋重合の解明を通じて複雑な 3 次元化機構の究明に取り組み、長鎖アルキル基の立体効果、主鎖および側鎖の極性差を利用した架橋反応のコントロールに注力している。
- (ロ) 1982 年より講演討論会の座長として、また、1998 年より関西地区実行委員長として講演討論会の企画運営に尽くした。
- 飯島 孝雄 (横浜国立大学) (イ) 三員環化合物の開環反応性に関する基礎研究からエポキシドの重合、硬化反応などの応用研究を行った。また、新規エポキシ樹脂を合成し、エポキシ樹脂などの熱硬化性樹脂の改質剤を開発した。
- (ロ) 1989 年以来、本・講演討論会の座長として運営に尽くした。

(学術奨励賞)

- 奥本 佐登志 (松下電工(株)) 分子軌道法によるネットワークポリマー関連反応の解析。

(ネットワークポリマー功労賞)

- 若山 博雄 (大日本インキ化学工業(株)) 合成ゴムラテックスの合成、応用研究の傍ら、1992 年より 1998 年まで編集委員としてネットワークポリマー誌の編集、同講演会の座長として運営、発展に貢献した。

＜第 26 回＞（2002）

（学術賞）

福田 明徳 （大阪工研協会）

- (イ) フェノール樹脂の高性能化の研究を進める中で構造と硬化特性・物性の関係を明らかにする中間体レゾールの組成分析の手法を確立。
縮合系樹脂をフェノール中で加熱し樹脂組成の分解・再配列反応を利用したケミカルリサイクルの成功等多くの成果を発表した。
- (ロ) 1986 年からネットワークポリマー誌の編集委員として当工業協会の運営に尽くした。

（学術奨励賞）

木村 肇 （大阪市立工業研究所）

- ベンゾオキサジン環の開環反応を利用した新タイプのフェノール樹脂の開発。

池田 順一 （共栄社化学株）

- メタクリル系架橋樹脂に関する基礎的研究。

＜第 27 回＞（2003）

（学術賞）

中本 義章 （金沢大学）

- (イ) フェノール樹脂に関する基礎的研究を進める中、フェノール系オリゴマーの合成と機能化、フェノール樹脂の生成反応及び分子特性解析に関する研究等、分子設計・合成、構造、物性の関連性を追及し多くの成果を発表し有用性を示した。
- (ロ) 1981 年以来、本講演討論会において講演発表を行うとともに、座長も務め、またフェノール、ユリア、メラミン樹脂に関する JIS 改正原案作成委員会委員長として当工業協会の発展に尽くした。

越智 光一 （関西大学）

- (イ) エポキシ樹脂系ネットワークポリマーの高機能化・高性能化に関する研究を進める中、ネットワーク構造解析及び材料特性と構造の関連の明らかにし、結果を踏まえて変性、ハイブリッド化等によるエポキシ樹脂の強靱化手法の確立、さらに耐熱性、韌性、接着性を兼ね備えた新しいエポキシ樹脂を開発している。
- (ロ) 2000 年からネットワークポリマー誌の編集委員として当工業協会の運営に尽くした。

（学術奨励賞）

大塚 恵子 （大阪市立工業研究所）

- 異種官能基を有するエポキシ樹脂に関する研究。

仙北谷 英貴 （東京工業大学）

- 粒子充填系ネットワークポリマーの腐食挙動に関する研究。

＜第 28 回＞（2004）

（学術賞）

長谷川 喜一 （大阪市立工業研究所）

- (イ) 構造の明確なフェノール樹脂中間体を母体とするエポキシ樹脂の構造と物性に関する研究を行い、耐熱性向上のための分子設計を確立し、次いで種々の変性技術によりエポキシ樹脂の強靱性、接着性などの改善した。

- (ロ) 変性エポキシ樹脂系クレーナノコンポジットを創製し、各種性能をバランスよく改善した高性能樹脂の開発に成功。
- (ハ) フェノール樹脂に関する JIS 改正原案の作成委員 (HI5)、本講演討論会での発表、座長として当工業協会の発展に尽くした。

(学術奨励賞)

- | | |
|------------------|--|
| 永松 ゆきこ (三重大大学) | 機能性リグニン系ポリマーの設計に関する研究。 |
| 辻 隆行 (松下電工(株)) | 片面封止パッケージ用エポキシモールド封止材に関する研究。 |
| 堀内 猛 (日立化成工業(株)) | エステル化合物、アミド化合物とエポキシ化合物の反応及びその応用に関する研究。 |

<第 29 回> (2005)

(特別賞)

- | | |
|---------------------|--|
| 内ヶ崎 功 (日立化成工業(株)) | 合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。 |
| 守谷 恒夫 (住友ベークライト(株)) | 合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。 |

(学術賞)

- | | |
|-------------------|---|
| 稲富 茂樹 (旭有機材工業(株)) | フェノール樹脂及び誘導体の選択合成反応に関する研究に従事し、特に相分離反応を有効な選択合成手法として提案し、その成果をネットワークポリマー講演討論会や関連学会誌に発表し実際の工業生産へと発展させた。 |
|-------------------|---|

(学術奨励賞)

- | | |
|-----------------------|---|
| 小西 玄一 (金沢大学) | デザイン型フェノールの精密重合によるナノマテリアルの創製。 |
| 小椋 一郎 (大日本インキ化学工業(株)) | 超高耐熱性、柔軟強靱性エポキシ樹脂、高純度で超低粘度のエポキシ樹脂などの開発。 |
| 原田 美由紀 (関西大学) | メソゲン骨格を導入したエポキシ樹脂ネットワークの配列制御に関する研究。 |

(ネットワークポリマー功労賞)

- | | |
|--------------|---|
| 菊田 佳男 (三井化学) | アクリル粉黛樹脂の開発、エポキシ系接着剤の開発研究の傍ら、2001 年より 2005 年まで編集委員としてネットワークポリマー誌の編集、同講演会の座長として運営・発展に貢献した。 |
|--------------|---|

<第 30 回> (2006)

(特別賞)

- | | |
|-----------------------|--|
| 奥村 晃三 (大日本インキ化学工業(株)) | 合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。 |
|-----------------------|--|

(学術賞)

- | | |
|---------------|--|
| 船岡 正光 (三重大大学) | 「天然リグニンの逐次精密機能制御とその循環型材料化に関する研究」に従事し、①細胞壁高分子複合系の解放、②リグニンの逐次精密分子構造制御、③リグニン系機能材料の開発とその持続的活用システム等の研究を行い、成果をネットワークポリマー講演討論会や関連学会誌に発表。また、座長も務め当工業会の発展に尽くした。 |
|---------------|--|

(学術奨励賞)

- | | | |
|-------|-------------|---|
| 稲田 禎一 | (日立化成工業(株)) | 「エポキシ樹脂／架橋性アクリルポリマーよりなる反応誘起型ポリマーアロイの材料設計とダイボンディングフィルムへの応用」に関する研究。 |
| 落合 文吾 | (山形大学) | 「二酸化炭素を原料とする高分子の合成及び二硫化炭素を原料とする高分子の合成」に関する研究。 |
| 門多 丈治 | (大阪市立工業研究所) | 「植物資源由来リグノフェノールを原料とするネットワークポリマー材料」に関する研究。 |

(ネットワークポリマー功労賞)

- | | | |
|-------|-----------------|--|
| 松村 昌弘 | (松下電工) | 絶縁材料用耐熱性高分子の開発研究の傍ら、1999 年より 2005 年まで編集委員としてネットワークポリマー誌の編集、同講演会の座長として運営・発展に貢献した。 |
| 加納 秀樹 | (大日本インキ化学工業(株)) | 自動車、電子材料及び住設関連等の高機能性工業用フェノール系樹脂の開発研究の傍ら、1998 年より 2005 年まで編集委員としてネットワークポリマー誌の編集、同講演会の座長として運営・発展に貢献した。 |

<第 31 回> (2007)

(特別賞)

- | | | |
|------|-------------|--|
| 林 信行 | (日立化成工業(株)) | 合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。 |
|------|-------------|--|

(学術賞)

- | | | |
|--------|------------|--|
| 西久保 忠臣 | (神奈川大学) | 「エポキシの新しい有機反応の創製とネットワークポリマーへの展開」に従事し、(1) アルカリ現像型エポキシアクリレート類の開発と光硬化性ソルダーレジストへの応用および (2) エポキシドの新しい有機反応の創製と高分子合成およびネットワークポリマーへの展開を行い、その成果をネットワークポリマー講演討論会や関連学会誌に発表し、発展させた。 |
| 梶 正史 | (新日鐵化学(株)) | 「多環芳香族構造を有するエポキシ樹脂の構造と硬化物の物性に関する研究」に従事し、(1) ビスフェノール構造を有するエポキシ樹脂、(2) ナフタレン構造を有するエポキシ樹脂および (3) 縮合多環芳香族構造を有するエポキシ樹脂の構造と物性の研究を行ない、その成果をネットワークポリマー講演討論会や関連学会誌に発表すると共に工業的にも有用な高機能性エポキシ樹脂を開発し、工業化を図り産業界に貢献した。 |

(学術奨励賞)

- | | | |
|-------|---------------|---|
| 岸 肇 | (兵庫県立大学) | 「ポリマーブレンドによるエポキシ樹脂の高機能化と物性発現メカニズム解明」に関する研究。 |
| 須藤 篤 | (近畿大学分子工学研究所) | 「エポキシとラク톤の新規共重合系の開発および硬化系への応用」に関する研究。 |
| 後藤 純也 | (住友ベークライト(株)) | 「超臨界流体技術を応用したフェノール樹脂のケミカルリサイクル技術の開発」に関する研究。 |

(ネットワークポリマー功労賞)

沼田 俊一 (日立化成工業(株))

重電からエレクトロニクス(半導体・配線板)までの広い用途範囲で用いられるネットワークポリマーの開発研究の傍ら、2002年から2007年まで編集委員としてネットワークポリマー誌の編集、同講演会の座長として運営・発展に貢献した。

二宮 善吾 (大日本インキ化学工業(株))

協会が発行する学術誌「ネットワークポリマー」の事務局担当者として編集委員会のサポート業務、また、「ネットワークポリマー講演討論会」の事務局担当者としての業務を2002年から2007年(3月)まで勤め、学術活動の維持・発展に努めた。

<第32回> (2008)

(学術賞)

久保内 昌敏 (東京工業大学)

「ネットワークポリマーをマトリックスとする複合材料の耐久性に関する研究」に従事し、ネットワークポリマーあるいはこれをマトリックスとする複合材料の様々な耐環境性に対する評価方法、劣化メカニズムの解明、その劣化を利用したケミカルリサイクルの提案、劣化機構に基づく機能性複合材料の提案を行ってきた。その成果をネットワークポリマー講演討論会や関連学会誌に発表し、複合材料の発展に貢献した。

松本 明博 (大阪市立工業研究所)

「フェノール樹脂の強靱化に関する研究」に従事し、弾性率の低い熱可塑性樹脂、フェノール核間結合距離が長い中間体、高分子量ノボラック等を用い、また、各種フィラーとの複合化によりフェノール樹脂の強靱化に多くの成果を挙げた。これらの成果を本討論会およびネットワークポリマー誌に発表し、フェノール樹脂の特性向上に大きく貢献した。

山岸 忠明 (金沢大学)

「フェノール系樹脂の構造と物性に関する研究」に従事し、フェノール系オリゴマーと構造の明確な樹脂の合成と性質、フェノール系樹脂の溶液物性、フェノール系樹脂の生成反応機構に基づいた高性能フェノール系樹脂に関する研究から、分子構造と性質の関係および樹脂の生成反応機構を解明した。これら研究成果を本討論会およびネットワークポリマー誌等にて発表し、フェノール系樹脂の新機能発現、高機能化に多大な貢献をした。

(学術奨励賞)

岡村 晴之 (大阪府立大学)

「再溶解型光・熱架橋系の開発とその応用」

岸 克彦 (株)スリーボンド)

「熱潜在性シリコンネットワークポリマーの構築」

竹市 力 (豊橋技術科学大学)

「ポリベンゾオキサジンの高性能化に向けた分子設計と材料設計に関する研究」

中川 尚治 (パナソニック電工(株))

「亜臨界水分解によるFRPの高付加価値化・水平リサイクル技術の開発」

＜第 33 回＞（2009）

（学術賞）

白井 正充 （大阪府立大学）

「リワーク型光架橋・硬化樹脂に関する研究」に従事し、光により架橋・硬化する樹脂に分解、解裂機能を付与した多くのリワーク型樹脂の分子設計と合成を行い、また、リワーク型多官能モノマー光硬化物の熱分解から、重合連鎖長に及ぼす光強度、重合開始剤濃度、モノマー構造などの影響を明らかにした。さらに、UV ナノインプリントリソグラフィー用光硬化樹脂としてリワーク型光硬化樹脂の適用を提案し、新しい光機能性材料への展開をはかった。その成果をネットワークポリマー講演討論会や関連学会誌に発表し、リワーク型ネットワークポリマーの発展に大きく貢献した。

（学術奨励賞）

青柳 充 （三重大学）

「天然リグニン誘導体リグノフェノールの物性の解明とその応用」

平野 寛 （大阪市立工業研究所）

「金属接着性に優れた含硫黄ポリマーとそのエポキシ樹脂への応用に関する研究」

吉江 尚子 （東京大学）

「可逆反応を利用したネットワークポリマーの機能化」

＜第 34 回＞（2010）

（学術賞）

岸 肇 （兵庫県立大学）

「高機能エポキシ樹脂の創製と物性発現メカニズム解析に関する研究」に従事し、①ナノミクロサイズのポリマーアロイ相構造制御によるエポキシ樹脂強靱化、②反応性エラストマー／エポキシネットワークポリマーの制振性発現機構の解明、③エポキシ樹脂ネットワークの粗密と応力場に応じた塑性変形の関係の究明およびナノゲル構造集合体の不均一性の観点からの耐熱性や塑性変形能力の発現機構の検討、④ゴムや熱可塑性樹脂微粒子の分散による強靱化エポキシ樹脂の耐疲労性発現メカニズムの解明、で大きな成果をあげた。

（学術奨励賞）

大山 俊幸 （横浜国立大学）

「*In situ* 生成改質剤による熱硬化性樹脂の強靱化および新規感光性エンブラの開発」

辻本 敬 （大阪大学）

「再生可能資源を利用した軟質バイオベースネットワークポリマーの開発」

中原 和彦 （新日鐵化学㈱）

「多環芳香族構造を有するエポキシ樹脂の構造と硬化物の物性に関する研究」

（ネットワークポリマー功労賞）

大鳥 利行 （住友ベークライト㈱）

電気電子材料等に用いられるネットワークポリマーの合成、複合化等の研究業務の傍ら、1995 年より編集委員として、ネットワークポリマー誌の編集、講演討論会の座長によりネットワークポリマー学術活動の発展に貢献を続けている。

＜第 35 回＞（2011）

（学術賞）

- 大塚 恵子 （大阪市立工業研究所） 「ヒドロキシメチル基やアリル基の反応性を利用したエポキシ樹脂およびジアリルフタレート樹脂の高性能化に関する研究」に従事し、①ヒドロキシメチル基を有するエポキシ樹脂の硬化メカニズムの解明とその応用、②アリル基を有するエポキシ樹脂を出発原料としたマレイミド変性エポキシ樹脂の合成と特性評価、③アリル基の反応性を利用したジアリルフタレート樹脂の改質、で大きな成果をあげた。
- 小椋 一郎 （DIC 株式会社） 「新規高機能エポキシ樹脂の開発研究」に従事し、①剛直骨格型新規エポキシ樹脂の創製、②柔軟骨格型新規エポキシ樹脂の創製、で大きな成果をあげた。

（学術奨励賞）

- 松本 幸三 （近畿大学 分子工学研究所） 「イオン伝導性ネットワークポリマーの合成と機能に関する研究」
- 三亀 啓吾 （京都大学 生存圏研究所） 「天然リグニンの逐次構造変換による芳香族原料化に関する研究」
- 岡部 義昭 （㈱日立製作所） 「リグニン由来エポキシ樹脂及びその電気・電子機器への適用研究」

（ネットワークポリマー功労賞）

- 國友 秀夫 （元 DIC 株式会社） 協会が発行する学術誌「ネットワークポリマー」の事務局担当者として編集委員会のサポート業務、また、「ネットワークポリマー講演討論会」の事務局担当者としての業務を勤め、学術活動の維持・発展に努めた。

＜第 36 回＞（2012）

（特別賞）

- 長瀬 寧次 （日立化成工業㈱） 合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。
- 鳥井 宗朝 （元パナソニック㈱
エコソリューションズ社） 合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。

（学術賞）

- 高橋 昭雄 （横浜国立大学） 「低炭素社会とネットワークポリマーに関する研究」に従事し、①エポキシ変性ベンゾオキサジン樹脂の研究、②ビスマレイミド-ベンゾオキサジン間反応を利用した耐熱性樹脂、③速硬化性シアナートエステル樹脂及びその強靱化の研究、④バイオマス由来リグニン応用エポキシ樹脂の研究、で大きな成果をあげた。
- 竹市 力 （豊橋技術科学大学） 「ポリベンゾオキサジンの高性能化・高機能化に向けた分子設計と材料設計に関する研究」に従事し、①新規なベンゾオキサジンの開発、②高分子量ベンゾオキサジンの開発、③ベンゾオキサジンと高性能高分子とのポリマーアロイ・共重合、④ベンゾオキサジンを一成分とする有機-無機ハイブリッド、で大きな成果をあげた。

（学術奨励賞）

- 工藤 宏人 （関西大学） 「UV 硬化性樹脂の開発を目的とした光機能性ハイパーブランチポリマーの合成」
- 竹澤 由高 （日立化成工業㈱） 「高次構造を制御したメソゲン含有高熱伝導エポキシ樹脂の研究開発」

宍倉 朋子 (DIC)

「UV 硬化型無機－有機ハイブリッド樹脂の合成と機能に関する研究」

＜第 37 回＞ (2013)

(特別賞)

有田 喜一 (群栄化学工業(株))

合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。

(学術賞)

須藤 篤 (近畿大学大学院)

「1,3- ベンゾオキサジンの開環重合機構の解明と新規モノマー類の設計および航空機材料としての実用化に関する研究」に従事し、① 1,3- ベンゾオキサジンの重合機構の解明、② 1,3- ベンゾオキサジンの重合促進剤の開発、③ 高反応性 1,3- ベンゾオキサジンの開発、④ 1,3- ベンゾオキサジンの室温における開環付加反応の研究、で大きな成果をあげた。

中村 吉伸 (大阪工業大学)

「ネットワーク構造を有する高分子複合系の高性能化に関する研究」に従事し、①フィラー充てんエポキシ樹脂の強靱化、②ゴム変性によるエポキシ樹脂の低内部応力化、③シランカップリング剤によるフィラー充てん系界面のネットワーク構造の制御、④ネットワーク構造を有する粘着剤の粘着性向上メカニズムの解明の研究、で大きな成果をあげた。

(学術奨励賞)

和泉 篤士 (住友ベークライト(株))

「ネットワークポリマーの構造解析に関する研究」

野村 幸宏 (コニシ(株))

「シリル化ポリウレタンを用いた 1 液湿気硬化型弾性接着剤に関する研究」

(ネットワークポリマー功労賞)

福井 太郎 (元パナソニック(株))

半導体用封止材料の基礎技術開発等の研究業務の傍ら、2006 年より編集委員として、ネットワークポリマー誌の編集、講演討論会の座長によりネットワークポリマー学術活動の発展に貢献。

＜第 38 回＞ (2014)

(特別賞)

杉江 和男 (D I C(株))

合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。

小川 富太郎 (住友ベークライト)

合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。

(学術賞)

木村 肇 (大阪市立工業研究所)

「ベンゾオキサジン樹脂を用いた高性能ネットワークポリマーおよび草本系リグニンを活用した高性能フェノール樹脂に関する研究」で大きな成果をあげた。

三田 文雄 (関西大学)

「水素結合ネットワークに基づく共役高分子の高次構造形成に関する研究」で大きな成果をあげた。

(学術奨励賞)

- | | | |
|-------|-------------|--|
| 有田 和郎 | (D I C(株)) | 「新規ナフチレンエーテルオリゴマーの合成と先端デバイス材料向けエポキシ樹脂への応用研究」 |
| 高下 勝滋 | (三新化学工業(株)) | 「エポキシ樹脂の熱潜在性カチオン重合触媒の開発」 |
| 香川 博之 | (株)日立製作所) | 「水蒸気爆砕リグニンの高耐熱電気絶縁樹脂への適用研究」 |

(ネットワークポリマー功労賞)

- | | | |
|-------|--------|---|
| 坪川 紀夫 | (新潟大学) | 粒子表面へのポリマーのグラフト反応による粒子表面への機能付与とネットワークポリマーへの応用展開に関する独創的な研究によるネットワークポリマー学術活動の発展に貢献。 |
|-------|--------|---|

<第 39 回> (2015)

(学術賞)

- | | | |
|-------|------------|--|
| 松本 幸三 | (近畿大学) | 「ネットワークポリマーを利用した新規高分子電解質の創製に関する研究」で大きな成果をあげた。 |
| 大山 俊幸 | (横浜国立大学) | 「改質剤の in situ 生成などを利用したネットワークポリマーの高機能化に関する研究」で大きな成果をあげた。 |
| 陶 晴昭 | (日立化成株式会社) | 「フェノール樹脂の高機能化をその新規な合成法と詳細な構造解析に関する研究」で大きな成果をあげた。 |

(学術奨励賞)

- | | | |
|-------|-----------------|---|
| 山崎 博人 | (宇部工業高等専門学校) | 「アルデヒド成分に着眼したクレゾールノボラック樹脂の合成と性質：柔軟性をもつフォトレジスト材の開発を目指して」 |
| 山内 健 | (新潟大学) | 「高分子ネットワーク構造を利用したナノ材料の複合化とスマートマテリアルの開発」 |
| 西田 裕文 | (ナガセケムテックス株式会社) | 「有機 - 無機ハイブリダイゼーションの研究」 |

<第 40 回> (2016)

(学術奨励賞)

- | | | |
|------|--------------|--|
| 宇山 浩 | (大阪大学大学院) | 「バイオマス資源を基盤とする軟質系ポリマーのネットワーク化と機能開発の研究」 |
| 松田 聡 | (兵庫県立大学大学院) | 「エポキシ樹脂およびその複合材料の疲労き裂伝ば抵抗に関する研究」 |
| 小川 亮 | (株式会社 ADEKA) | 「エポキシ樹脂の高機能化と応用展開に関する研究」をあげた。 |

(ネットワークポリマー功労賞)

- | | | |
|-------|--------------|--|
| 中尾 俊夫 | (東京大学 物性研究所) | 「解析的ゲル化理論の殆どを包含する“カスケード理論”の精密化と拡張を進め、理論の定式化に関する研究」 |
|-------|--------------|--|

<第 41 回> (2017)

(学術賞)

- | | | |
|-------|-------------|--|
| 岡村 晴之 | (大阪府立大学大学院) | 「複数波長の光を用いたポリマーネットワークの制御とその機能性材料への応用研究」 |
| 青柳 充 | (広島県立大学大学院) | 「天然リグニンならびにリグノセルロース複合体に対する化学修飾による化学構造ならびに物性制御に関する研究」 |

竹澤 由高 (日立化成株式会社) 「高次構造を制御したメソゲン含有高熱伝導エポキシ樹脂の研究。
(学術奨励賞)

玉祖 健一 (株式会社 ADEKA) 「エポキシ樹脂の高機能化を目的とした材料設計と開発研究」

大賀 将範 (北興化学工業株式会社) 「先端デバイス材料に向けたエポキシ樹脂のリン系硬化促進剤の研究」

前田 真也 (コニシ株式会社) 「多官能ビニルオキシランのラジカル開環重合を基盤とするネットワークポリマーの合成」

(ネットワークポリマー功労賞)

松本 昭 (関西大学 名誉教授) ネットワークポリマー論文集への投稿、同講演討論会の座長として長年にわたり運営・発展に貢献した。

長谷川 喜一 (元大阪市立工業研究所) ネットワークポリマー論文集の編集、同講演討論会の座長として長年にわたり運営・発展に貢献した。

<第 42 回> (2018)

(特別賞)

田中 一行 (日立化成株式会社) 合成樹脂工業協会及び会社のトップとしてネットワークポリマーに関する研究の指導・支援を行い発展に寄与。

(学術賞)

中原 和彦 (日鉄ケミカル & マテリアル株式会社) 「多環芳香族構造を有するエポキシ樹脂の量産化と応用評価に関する研究」

原田 美由紀 (関西大学) 「メソゲン構造を導入したエポキシ樹脂の構造制御と高性能化に関する研究」

(学術奨励賞)

米川 盛生 ((地独) 大阪産業技術研究所) 「隣接トリカルボニル化合物の反応性を利用した可逆的な架橋—解架橋系の構築に関する研究」

森野 一英 (株式会社 ADEKA) 「繊維強化プラスチックの高機能化を目指した材料設計と開発研究に関する研究」

市瀬 英明 (長崎県工業技術センター) 「二酸化炭素とエポキシドを基材としたネットワーク型ポリヒドロキシウレタンに関する研究」

青柳 直人 (近畿大学分子工学研究所) 「硫黄原子からなるスピロ構造を有する二官能性モノマーの合成と光硬化反応による高屈折率ネットワークポリマーの合成に関する研究」

<第 43 回> (2019)

(学術賞)

工藤 宏人 (関西大学) 「高性能なネットワーク構造の創製を目的とした新規硬化反応の研究開発」

有田 和郎 (DIC 株式会社) 「各種の高機能、新規熱硬化性樹脂の創製に関する研究開発」

(学術奨励賞)

松本 章一 (大阪府立大学) 「エポキシモノリス多孔材料の開発と機能化に関する研究」

酒井 崇匡 (東京大学) 「構造の精密に制御された高分子ゲルの合成とその力学挙動の解明に関する研究」

首藤 靖幸 (住友ベークライト株式会社) 「分子シミュレーションを用いたフェノール樹脂の構造・物性相関解析に関する研究」

瀬戸 良太 (株式会社 ADEKA) 「ヘテロクムレンを側鎖に持つポリマーの合成とネットワーク化に関する研究」

(ネットワークポリマー功労賞)

小島 靖 (日立化成株式会社) コーティン用／接着用の合成樹脂の開発等の研究開発の傍らネットワークポリマー誌の編集、講演討論会の座長によりネットワークポリマー学術活動にの発展に貢献。

小畑 敬祐 (三井化学株式会社) 熱硬化及びUV硬化コーティン用の合成樹脂の開発等の研究開発の傍らネットワークポリマー誌の編集、講演討論会の座長によりネットワークポリマー学術活動にの発展に貢献。

<第44回> (2020)

(学術賞)

宇山 浩 (大阪大学) 「新しいバイオベースネットワークポリマーの創製と木の開発」

和泉 篤士 (住友ベークライト株式会社) 「フェノール樹脂の架橋ネットワーク不均一性解明に関する研究開発」

(学術奨励賞)

角田 貴洋 (金沢大学) 「フェノール誘導体を利用した新たな高分子材料の研究開発」

大村 昌己 (日鉄ケミカル&マテリアル株式会社) 「多環芳香族構造構造の主鎖および側鎖への導入とその硬化物物性に関する研究」

岡本 衆資 (九州工科大学分子工学研究所) 「重合時に低体積収縮性を発現するアクリラート類の創製」

(ネットワークポリマー功労賞)

松本 明博 (大阪産業技術研究所) フェノール樹脂を中心に熱硬化性樹脂の研究に従事しネットワークポリマー誌の編集、講演討論会の座長によりネットワークポリマー学術活動にの発展に貢献。

飯田 浩 (住ベリサーチ株式会社) 新規評価技術の開発等の傍らネットワークポリマー誌の編集、講演討論会の座長によりネットワークポリマー学術活動の発展に貢献。

篠谷 賢一 (パナソニック株式会社) 新規製品の開発等の傍らネットワークポリマー誌の編集、講演討論会の座長によりネットワークポリマー学術活動の発展に貢献。

<第45回> (2022)

(特別賞)

中西 義之 (合成樹脂工業協会 元会長) 協会会長、副会長として在籍5年間で、協会の学術活動に多大なる貢献を戴いたので顕彰する。

林 茂 (合成樹脂工業協会 元会長) 協会会長、副会長として在籍8年間で、協会の学術活動に多大なる貢献を戴いたので顕彰する。

(学術賞)

山崎 博人 (宇部工業高等専門学校) 「古くて新しいフェノール樹脂を用いた柔軟性をもつフォトレジスト材の開発」

小川 亮 (株式会社 ADEKA) 「エポキシ樹脂の高機能化と応用展開」

(学術奨励賞)

- 富田 育義 (東京工業大学) 「高不飽和モノマーの精密重合を基盤とするネットワークポリマーの開拓に関する研究」
- 舘 秀樹 ((地独)大阪産業技術研究所) 「外部刺激に応答し分解反応を引き起こす高分子材料の開発」
- 吉田 嘉晃 (九州工業大学) 「ケミカルリサイクル可能な高機能性ポリジチオウレタンの創生と応用」

<第46回> (2023)

(学術賞)

- 門多 丈治 ((地独)大阪産業技術研究所) 「バイオマスベースネットワークポリマーの精密合成と機能化に関する研究」
- 落合 文吾 (山形大学) 「豊富な資源を活用した環境適合性ネットワークポリマーの創製」

(学術奨励賞)

- 森 康友紀 (滋賀医科大学) 「エポキシ樹脂を用いた硬化系の高性能化を指向した機能性分子に関する研究」
- 藤田 明 (D I C株式会社) 「特殊形状多面体アルミナフィラーを用いた高熱伝導シートへの応用に関する開発」

(ネットワークポリマー功労賞)

- 藤本 尊三 (元住友ベークライト株式会社) 協会が発行する学術誌「ネットワークポリマー論文集」の事務局担当者として編集委員会のサポート業務、また、「ネットワークポリマー講演討論会」の事務局担当としての業務を勤め、学術活動の維持・発展に努めた。

<第47回> (2024)

(特別賞)

- 森川 宏平 (株式会社レゾナック・ホールディングス会長) 合成樹脂工業協会の会長・副会長として、協会の学術活動に直接のご指導、ご支援をいただきました。

(学術賞)

- 平野 寛 ((地独)大阪産業技術研究所) 「異種材料間の界面密着性の向上に関する研究」
- 玉祖 健一 (株式会社ADEKA) 「エポキシ樹脂の高機能化を目的としたエポキシ樹脂および硬化剤の設計と研究開発」

(学術奨励賞)

- 一二三 遼祐 (東京科学大学) 「ホスフィンスルフィド基含有ポリマーの開発と機能開拓」
- 橋本 裕輝 (日本曹達株式会社) 「リビングアニオンの重合解析とその特長を活かした先端材料への応用開発研究」

(ネットワークポリマー功労賞)

平松 宗大郎 (三菱ガス化学株式会社) 電子材料 (プリント配線板用材料) の開発に従事し、ネットワークポリマー論文集の編集、講演討論会の座長によりネットワークポリマー学術活動の発展に貢献。